

基本コンセプト・キーワード

<市民生活主体・ローカル>

「ほのぼのとした、殺風景な茅ヶ崎海岸の創造」  
 「市民にとっての庭づくり」  
 「自分の住まいの延長にある海浜」  
 「もてなし、ふるまい、しつらえ」

<継承>

「次世代に残すものを作る。」  
 「子どもにとって記憶に残る風景」

<自然環境保全・共生>

「自然に敬意を払い、優先し、自然のなかでどうしていくか。」  
 「自然に手を加えるのは最低限に」

<アメニティ・拠点>

「浜に行くと楽しいことがある。」  
 「自然とのふれあいを育む交流拠点」

<ヒューマンスケール>

「ゆったりした時の流れ」  
 「ヒューマンスケール」  
 「人にやさしいデザイン」

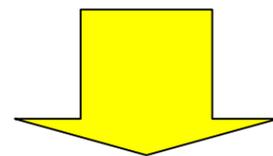
「ECOSOPHIA エコソフィア」

<環境>を自然資源とし、<人の知恵=クリエイティブ>を知財とする。  
 重要な四つの「り」

モノの離：海岸という自然資源に人間（居住者）の文化を融合するヒューマン・ウェア  
 人の哩：そこに住み、そこで花を咲かせる人をプロジェクトの中心に据える。  
 天の理：時代と宇宙観の中で「CHIGASAKI」を座標いる思想  
 地の利：太平洋側、関東地方のおだやかな「SOUTH」をイメージ

「サイト・ビーイング」

人々は、茅ヶ崎に来ることによって、心から<Being>の形を学び、自覚する。同時に迎え入れる市民もまた、高い自治の意識とホスピタリティ発揮のノウハウを学んでいく。



テーマ

<景観>

「市民の誇りとなる海辺の景観づくり」

<人にやさしい>

「海辺のユニバーサルデザイン化」

<交流>

「ウッドデッキであらゆる世代が交流」

<まちの特性アピール>

「茅ヶ崎の特性・魅力を発揮」  
 「茅ヶ崎の文化の発信・創造」

<環境保全・保安>

「自然・生態系の保全活用」「海岸の保全・保安」

<共生>

「交通、緑化、ごみ等を含めた環境共生」

<活性化>

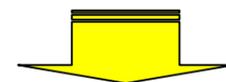
「茅ヶ崎ブランドを生み出す新産業の創出」  
 「産業の振興」

<運営>

「市民が主体であるエリアマネジメント」  
 「事業性との整合性」

空間イメージ

- 134号から海を見たときに引き込まれるような空間づくり
- 海への眺望が開かれた空間づくり
- 豊かな時間が消費できる空間づくり
- スペースの広さだけでなく、ゆったりとした気持ちになれる空間づくり



望まれる施設

※世代間交流を踏まえた複合化の検討

<インフラ系>

- 海上交通の拠点としての漁港
- ボードウォーク

<観光系>

- 海が見える温泉
- 物産館
- フィッシュマンズワーフ・レストラン系
- ホテル

<音楽系>

- 湘南サウンド・ミュージアム
- ライブハウス

<公共施設系>

- コミュニティホール
- 海が見える高齢者のための施設（デイケアセンター）

<教育・自然系>

- 野口聡一子ども記念館
- ちがさき海岸ハマヒルガオ公園

